



すかがわ
須賀川の 牡丹の木の めでたきを
ぼたん
炉にくべよちふ 雪ふる夜半に

北原白秋

福島県の須賀川市には「須賀川牡丹園」があります。

立てば芍薬、座れば牡丹…。ポタンといえは大きくきれいな花を咲かせることで誰でも知っている花木で、種類によつては秋ごろにも咲くのもあります。ポタンは、漢方処方薬としても有名ですが、何ととっても豪華で大きな花の美しさ、それを観賞するのが一番の楽しみです。

もう一つの風雅な楽しみ方それは、枯れたポタンの木でたき火をすることです。

須賀川牡丹園では毎年11月の第3土曜日の薄暮から宵にかけて、樹齢を重ねて枯死した老木や途中で折れたポタンの木をたいて、ポタンを供養する行事が行われています。

このとき、俳句愛好者がこのたき火を囲み、優雅に色が変わるポタンの火の色、香り、そして火の温かさの風情を楽しみながら句を詠む行事も行われています。

俳人、北原白秋は、作品の中で「見る」と「観る」を使い分けています。「見る」は視覚的に見える状態をいっていますが「観る」は心の目、つまり心眼で理解する状態を表しています。

その花言葉にあるように「風格」「恥じらい」「人見知り」をポタンの花に感じ取っていたのか、白秋が観たポタンの美しさを聞いてみたくなります。

さて、事実と真実は時により異なることがあります。

さまざまな出来事、言葉、行動を冷静に客観的に見るとき、その置かれた状況によっては判断を過つことが多々あります。事実の奥行きを洞察する多様な物の見方考え方が必要だと言われるゆえんでもあります。

私も事実の「奥行き」を知った出来事がありました。



指宿市長
豊留悦男

一人の男の子が、爪の検査をした後、何度も机を離れて何か言いたそうにやって来るのです。注意すればするほど、いら立った行動をしています。その子は左手の爪は短く切っていました、右手の爪は伸びていたので「爪はきれいに切っておくように」と注意したのでした。後で分かりましたが、母親は祖母の看病のため、数日留守をしているとのことでした。その子は、慣れない手つきで左手の爪だけを切って登校したことを知りました。爪が長いという事実は変わりませんが、事象に隠された「真実」を洞察できる人間でなかった自分を悔やむことでした。